



「いきいきとした子ども時代」を次の世代にも! こどもステーション山口のSDGsの取り組み

今、多くの人が関心を持っているSDGs(持続可能な開発目標)。2030年をゴールに世界中みんなで目指す、地球規模、世界規模の目標です。子どもたちが安心して自分らしく育つことができる社会を築けるように、こどもステーション山口も取り組んでいきたいと思えます。私たちのビジョンは、「すべての子どもたちの文化的な暮らしを保障し、心ゆたかな子ども時代をすごすことのできる社会に」そして、ミッションは、「すべての子どもたちが、いきいきとした子ども時代をすごせるようサポートする」ことです。子どもたちの「いま」に向き合うことで、子ども・おとな含むすべてのひとが生きやすい社会につながり、いまの社会をよりよくすることは、未来の子どもたちのいきいきとした子ども時代にもつながるでしょう。

目的	活動内容	
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの遊びや体験活動の推進 子どもたちが芸術文化に親しむ機会の創出 子どもの権利条約第31条の順守(子どもの余暇・文化の保障) 	プレーパーク、こどもまつり、こどもキャンプ、アウトメディア、舞台鑑賞会	
<ul style="list-style-type: none"> 地域とのつながりを大事にした活動 子どもにとって、自分らしくいられる場づくり “わたしの子ども”から“わたしたちの子ども”へと視野を広げての活動 子ども同士の異年齢での関わりや交流 	地域活動、プレーパーク、中高生グループの活動、る・り・フリー(舞台表現活動)	
<ul style="list-style-type: none"> 子どもと大人は対等という意識を持って行動 	子どもの権利条約の学習会	
<ul style="list-style-type: none"> 他団体との連携やつながりを大事にした活動 	プレーパーク、舞台鑑賞会、保育スタッフ派遣	

みんなのこえ プラットホーム

我が家の下の子はゲームが好きだ。で、私はゲームが嫌い。当然数年にわたり我が家ではゲームや動画をめぐる親子の熾烈な戦いが繰り広げられている。「Kちゃん何分それやるん?」「Kちゃんゲーム依存になるよ!」。子育ての禁手である脅しが功をそうしたのかKちゃんがある日「メディア講座」なるものに自ら出たいと言っではないか。母は内心小躍りしつつ親子で講座を受けた。母の希望通りにスマホやゲームの危険性をたっぷり諭され「我が家のきまり」なるものまで作成。これとよく戦いは収束したかに思えたある日。なんとKちゃんは「お手伝い動画券」なるものをつくってきたのである。犬のえさやり→10分、お風呂洗い→10分等々。つまりお手伝いをやるからその分動画をみせて欲しいというなんとも親の断りにくい手段で攻めてきたのである。私はまんまとその手に乗ってしまった。Kちゃんは悠々とま〇ぜんシスターズのゲーム動画なるものを見ている。しかし、母は負けてはいない。10分を5分に書き換えておいた。こうしてまだまだ我が家の戦いは続くのである。(白石Mさん)

10年 わすれ ない 3.11

2012年夏、こどもステーション山口は「3.11 Fukushima 子どものえがくたいせつな絵展」をC・S赤れんがで行った。2011年5月、東日本大震災で大きな被害を受けた福島県相馬市の小学3年生80人が、画家の蟹江杏(あんず)さんと絵を描いた。厳しい現実を正面から見上げる絵の力強さに打たれた杏さんは、子どもたちの思いを伝えるために絵画展を開催することを全国に呼びかけた。それが赤れんがでも行った絵画展だ。つらい気持ちが伝わる絵もあれば、あっぱれな発想で震災を乗り越える絵、明るい未来を描く絵もあった。杏さんには10年後に必ずこれらの絵を子どもたちに返すという約束があった。そして今年3月、杏さんから子どもたちに絵が返されるまでのようすがテレビで放映された。子どもたちは高校3年生となり、いま人生の岐路に立つ。あの夏、印象的だった「津波の上で楽しそうにサーフィンをする子どもの絵」の作者は、すでに高校を中退して一足先に社会人として実人生を歩き始めていた。彼の明るい笑顔が画面からあふれていた。(ウスイ)

LineUp

2021 舞台鑑賞会の予定
対象年齢 乳幼児 低学年 高学年
変更になることがあります。ご了承ください。

Witty Look of the life's a CIRCUS!!!!
5月30日(日)
維新大見アリーナ レクチャールーム
《チキキキパーク》

あっちこっちdeアート
冬眠ピアノお目覚めコンサート
8月26日(木)~29日(日)
山口市内各所 《地球ハーモニー》

河野康弘
ジャズピアノコンサート
8月28日(土)
山口市市民会館 小ホール 《地球ハーモニー》

いおり博士とこうじくんの
理科室パフォーマンスショー
11月18日(木)
山口県教育会館ホール 《スタジオエッグス》

人形劇
トレテツクパレード
12月10日(金)
山口市市民会館 小ホール 《人形劇団 コンコ》

人形劇
どんどこももんちゃん /カミナリカレ
2022年2月23日(水・祝)
山口市市民会館 小ホール(人形劇団 むすび座)

わたしとわたし、ぼくとぼく
2022年3月5日(土)
維新大見アリーナ レクチャールーム
《劇団うりんこ》

ピアノの魔術師
2022年5月28日(土)
山口市市民会館(予定) 《サウンドポケット》

赤れんがだより
クリエイティブ・スペース赤れんがはこどもステーション山口が指定管理者となっています。
8月11日(水)~29日(日)
原田和明展
10月14日(木)~16日(土)
公共ホール音楽活性化支援事業(おんかつ)
12月4日(土) チェンパロコンサート



さまざまな体験・たくさんのおなかま…そんな出会いの中で子どもたちがいきいきと活動しているようすなどをお伝えします



ニュースです!
こどもステーション山口は法人化 20周年を迎えました。

2021年5月1日発行(年2回)
発行/認定 NPO 法人こどもステーション山口



たちどまってミルかんがえてミル
やってみたい!のそのさきに 1p

いきいきとした子ども時代を、すべての子どもたちに。2p

子どもたちの体験と活躍がすてき! 3p

こどもステーション山口のSDGsの取り組み 4p

維新百年記念公園 芝広場「いちにもプレーパーク」
晴天のもと、ダンボール遊びやバンブーダンスなど、思い思いの発想で遊んだ。

たちどまってミル かんがえてミル 第12回

やってみたい!のそのさきに

遊びのなかでの子どもたちの挑戦を、とめてしまっていないか?
その挑戦、実はとっても大切なのかも。



人は、悩む。
ああでもない、こうでもない、あ〜どうしよう〜!
悩んだ末に、なにかを選びとる。
それは、選ばなければ、進めないから。
子育てなんて、悩んでばかり。
結局、なにが正しいかわからないまま、流れにまかせて進むしかなかったりもする。
でも、そんな小さな分かれ道を通過して、わたしたちはおとなになってきたし、そしておそらく、悩むことにおわりはない。

迷いが無い。
あれもこれも、やってみたい。
やりたくないことは、どうしたってやりたくない。
とにかく、あとさきなんか考えない。
そんなとき、先回りしてしまうのはおとなのほう。
子どもが失敗しないように、どうしても導いてしまいたくなるけど。
やってみたい、には、やってごらん、でいい。
ムリじゃないかとか、失敗したらとか、危ないとか、そんなことはぐっとこらえて。

その選択が、正しいのか間違っているのか、それはだれにもわからないけど。
でも、わたしはこれを選ぶ!という意味があればいい。
どれだけ悩んでも、自分で選んだ「決断」には意味がある。
そこがはつきりすることで、進むべき道が見えてくる。
親の敷いたレールは、だから意味がない。
自分で選んでいないから。
成功も失敗も他人任せになってしまうから。
大切なのは、ここぞというときに、しっかりと自分で決断できるかどうか。

うまくいかなくても、やってみた、ということ経験になる。そして、心が満足する。

そんな思いで、プレーパークは誕生したらいい。

そして、失敗も、自ら引き受けるという覚悟を身につける。

その点、子どもの決断力に驚かされることがある。
たとえば、どっちがすき?っていう質問に、迷わずこっち、と選ぶ。
それは、直感なのか、とにかくすばつと。
それと同じように、遊びのなかでの子どもの「やってみたい!」にも



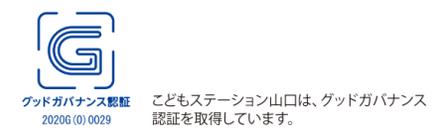
そんな体験をくりかえすことで、決断力に磨きがかかる。
悩んだり、選ばなければならぬ場面はつねについて回るけれど、そのときになにを選ぶのか。

なんてことを考えながら、わたしのこれまでの決断をふりかえる。
失敗もあったような気もするけれど、やりなおしがきくのもまた、人生の醍醐味。かな。(カキタ)

こどもステーション山口は
子どもたちが文化芸術に親しんで、心ゆたかな子ども時代を過ごせることを願って活動しています。プロの舞台芸術に出会う舞台鑑賞会のほかに、キャンプやこどもまつりなど、たくさん仲間といっしょに活動できる場をサポート。大人にも、“子どもと共に育ちあう”学習の機会を提供しています。また各地区ブロックでは、会員が地域のつながりを大切にしながら独自の楽しい活動を行っています。

こどもステーション山口 WEBサイト
<https://kodomo-st.org>
こどもステーション山口の最新情報、さまざまな活動のレポートを紹介しています。

入会お待ちしております...舞台鑑賞会の入場料が無料です!
正会員 月会費2,500円(子どもの登録OK)
子どもの登録料(一人500円/年)
準会員 月会費1,300円(大人だけの参加)
賛助会員 個人会費:一口 5,000円/年
団体会費:一口10,000円/年
※寄付も随時、募っています。
※年間3,000円以上ご寄付いただいた方は確定申告により、税額控除が受けられます。



《「支え人。」としてのご支援をいただいている企業》
■(株)メルシー ■リンドヴルム ■ポーラ Sweet
「支え人。」とは…
NPOの活動に賛同した企業が自社の商品販売する中で、売り上げの一部をNPOに寄付する山口独自のシステムです。
【こどもステーション山口の4月の会員】
正会員 116人 準会員 62人 子ども登録数 227人 計405人

YA!

【こどもステーション山口 広報紙】
2021年5月1日発行
発行・認定NPO法人こどもステーション山口
ご意見・ご感想お待ちしております。
〒753-0047 山口市道場門前2-4-20国近ビル2F
TEL・FAX 083-925-1486 ☎co26station@yahoo.co.jp
【事務局】 開局日 月~金10:00~17:00

いきいきとした子ども時代を、 すべての子どもたちに。

こどもステーション山口は、2月に法人化20周年を迎えました。
ご存知かと思いますが、この広報紙「YA!」は、こどもステーション山口が発行しています。
知らなかったというあなた、それは知ってるけど、こどもステーション山口がなにやってるのかよく知らない、というあなたも、はたまたどっぷりハマっているあなたにも、改めてご紹介しましょう。
こどもステーション山口ってこんなことしてます！！

生の舞台を「みる」

結構な頻度で聞かれます。
“子どもたちが、劇とかやるんでしょ？”
そんな活動もありますが、でも、一番は「プロが演じる舞台をみる」こと。
演劇、人形劇、音楽、伝統芸能、パントマイムなどなど。
ちょっと上手な人、ではなくて、その技で人の五感を刺激する、そんな人の演じる舞台を生で「みる」体験をしています。

「遊ぶ」

賢くしたければ外遊びを、なんて言い方をされると、順番が違うんだけどなー、と思ってしまいます。
遊びたいから遊ぶ。子どもの仕事は遊ぶこと。
そんな大前提のもと、赤ちゃんからおとなまでが集まって、自由に遊んできました。
会員全体で、地域ごとに、中高生が集まって、と、いろんなグループで活動するので、同学年だけではないともだちができ、先輩後輩とはまた違う、年齢を超えた対等な関係を築いています。
小学生と高校生と一緒に楽しく遊んでいる風景、なかなかいいものです。



ここで、歴史を少し。

前身は、「山口おやこ劇場」といいます。
山口で育った方なら、聞いたことがあるかもしれません。
「おやこ劇場」や「子ども劇場」などの名前で、全国各地に同じ思いで活動する会があるので、昔入ってまし



年齢も住んでる地域も性別も違うみんなが交ざって遊ぶ。これ、こどもステーション山口の常態！

た、という方に出会うこともあります。
自分が楽しかったから自分の子どもにも、と入会するパターンもあります。
はじめは、47年前。
世の中はこんなに変わったけれど、生の舞台をみると、異年齢で遊ぶこと、基本はいまと変わりません。
変わらないのはなぜなのかと考えると、その答えはきっと、昔もいまも関係なく、子どもにとって必要なものだから。そして、子どもはいつの時代も子どもだから、だと思えます。

そこから、法人化と同時に、こどもステーション山口と名前を変え、スタートしたのが21年前のこと。
「わたしの子どもから、わたしたちの子どもへ」
その当時掲げた思いは、いまそのまま、ここにありますが。

子ども時代は、いま、このとき

自分たちの子ども時代とくらべてみるだけでも、世の中はとても忙しくなっていました。
共働きが主流となり、幼稚園に通う子どもは減り、保育園は入るのが困難。
子どもと親が触れ合う時間は必然的に少なくなりました。
小学生になれば、朝早くから夕方まで学校で過ごし、放課後は習い事やスポ少で遊ぶ時間もあまりありません。
このままでいいの？子どもたち？

子どもが生まれたその瞬間から、わたしたちは子育てという修行のような日々に入ります。

夜は眠れないし、思うとおりに物事は進まないし、部屋はかたづかないし、こんな生活が一続くんじゃないかと恐れおののくのです。
だけど、当たり前といえば当たり前のことだけど、子どもは日々成長していきます。
だんだん、ひとりですべてできるようになって、気づけばいつの日か、巣立っていくのです。
「いまは大変だけど、すぐ大きくなっちゃうんだよ」って、先輩お母さんたちが少し寂しそうに言っていたこと、少し子どもが大きくなると、このことだったか、と思えます。
子ども時代は、そんな風に、いつの間にか終わってしまします。
とりえずこなしていくハチャメチャな毎日のなかに、大切なものがたくさんつまっているのに。

すべての子どもたちがよりよい子ども時代を過ごせるように。わが子だけではなく、まわりにいる子どもたちも同じように。



なにかをはじめようとするとき、新しい挑戦は、パワーはいるけど決めてしまえばあとは進むだけ。
逆に、やめてしまうことも、そう難しいことではなかったりします。
いちばん頭を悩ませるのは、状況が変わっていくなかで、どう続けていくかではないでしょうか。
このさきの10年、20年、こどもステーション山口は、これからも変わらず、そんな思いで活動を続けていきます。(カキタ)

子どもたちの体験と活躍がすてき！

リズム リラックス 自由

る・リ・フリー 2021

子どもたちによる創作舞台！
やまぐち子ども・子育て応援ファンド助成事業
3/28(日) 山口県立図書館 レクチャールーム

子どもたちの自由な発想で創り、表現する舞台「る・リ・フリー」。前身の「第1回文化まつり」から今年で35年目です。当時はブロック(地域枠)の中でさらにグループにわかれるほど子どもが多く、1989年の出演はなんと24グループ！夕方には出演者も観客もクタクタになったそう。その後、高学年対象の「高学年文化まつり」、2001年には全子ども対象の「る・

る・リ・フリー」へ、と変遷する中でも、子ども主体の姿勢は変わっていません。
昨年は本番直前に中止が決まり、年末から始めた練習もみんなのやる気も宙ぶらりんのまま1年…今年も感染防止対策として高学年以上対象となり、4グループが出演しました。

あるブロックの練習風景。練習よりも遊び時間を楽しみに集まる子どもたち。遊ぶときは年齢差もなく、すごい集中力。突然、ひとりの男の子が冒頭から演じ始める。これが練習再開の合図となり、1回通す。とても自然にこうなった。遊びがなく練習だけだとこうはならない。

今年の題材はむかし話や得意技の披露、コロナ禍のできごとなど、自分たちが今表現したいこと。完成形なんてなく、笑いやアドリブもハプニングもあるからおもしろい。子どもたちの“楽しかった～”を大人も共有できることも「る・リ・フリー」の醍醐味です。
ゼロから考え、創るという機会には意外に少ないもの。舞台を観られない期間があったからこそ、鑑賞する機会も、表現する機会も、心が躍る体験を子どもたちから減らしたくないな、と思いました。(ナガタ)

あそびの会 中高生グループ

あそびの企画は おまかせあれ！

あそびの会 11/8(日) 仁保 自然道場ふれあい広場 赤い羽根共同募金
今回の目的は広場で思いっきり遊ぶこと。小4～高校生まで25名が参加。初参加の子も自己紹介やたけのこニョッキなどのゲームで緊張がほぐれたら、もう友だちに。終始笑い声が絶えません。昼食はホットドッグを作りました。キャベツの千切り、難しいなあ。みんなで食べたらすごくおいしい。午後はドッチボール、ケイドロで走り回りました。

おかしパーティ 12/27(日) 山口市男女共同参画センター
中1～高2までの11名でおかしパーティを開催しました。買い出しや会場準備、司会進行も自分たちで分担し、令和版ハンカチ落としやお菓子獲得ゲーム、オリジナルビンゴなどで会場はとても盛り上がりました。



子どもたちが自由に遊べて安心な遊び場！ プレーパークを山口に！

プレーパークは、禁止事項がなく、子どもたちが自分の責任で、自由に遊べる空間です。毎月開催されている『いちにちプレーパーク』。4月で13回目を迎えました。
常設のプレーパークの設置を目指した署名活動は、1万筆を目標にして、4/17現在6316筆です。今年度は、皆さんの思いと共に山口市長に手渡す予定です。



『いちにちプレーパーク』の時、よく聞かれることがあります。
「何を遊ばないの？」
その時はこう答えます。
「何を遊んでもいいよ。何もなくてもいいよ。」

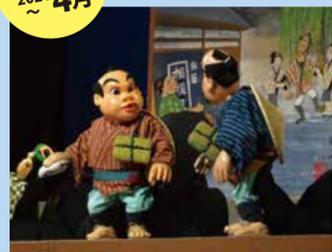
例えば、近所の公園では禁止されている遊びでも、プレーパークでは基本的に「それしちゃう駄目！」って言いません。



子どもたちは少し戸惑って、でも、終わる頃には笑顔になって帰っていきます。
与えられたものではなく、自分で決めて、考え、遊び、満足する。山口市にそういう場所があるように。これからも活動は続きます。
(ムラカミ)

延期になっていた舞台鑑賞会が次々開演 こんな舞台をみてきたよ

こどもステーション山口の舞台鑑賞会には、人形劇や舞台劇などいろんなジャンルがあります。



人形劇 弥次さん喜多さん トんちんかん珍道中
人形劇団 ひとみ座 (低・高学年対象)
11月12日(木) 山口市民会館 大ホール
延期から9ヶ月。人形によるお囃子や講談。笑いあり、人情味ありの、まさしく珍道中。ロビーでは、大殿ブロックの“おみくじ”神社が登場！
●ほくほくにおちてしんじやうと思ったけど、おにの山がたすけてくれてほっとしました。(会員男子)
●人形が人間みたいでした。楽しかったです。三味線かけえです。(会員)



人形劇 トクントクン-いのちの旅-
人形劇団 クラルテ (低・高学年対象)
11月29日(日) 山口市民会館 小ホール
ふたつのいのちの旅をリンクさせた壮大なファンタジー。言葉のない劇から子どもたちが得た想像が驚くほどゆたかでした。
●どーゆうちょうっておもったけど、地球にいん石みたいなのが落ちたり、おもしろかった。(小4)
●こんなに言葉のない劇は初めてです。不思議でたまらない一時間でした。(会員 40代)



ちゃんぷるー (高学年対象)
~私が幽霊!?修学旅行~ 児童協
2月3日(水) 山口市民会館 小ホール
鹿児島の中学生と劇作家 西上寛樹氏が共同制作。今の子どもたちのリアルと、戦時の子どもたちのリアル、両方にしっかり向き合い「生きる」ことへのメッセージが詰まっていました。
●コロナで沖縄に修学旅行にたぶん行けないので、この話をみれてよかったです。(会員 14才)
●来て良かった、と思える劇でした。(会員 50才)



はなのき村 劇団うりんこ (低学年対象)
2月20日(土) 山口市民会館 小ホール
新美南吉の童話を元に演劇化。目の前で繰り広げられる物語の世界に引き込まれました。
●原作を読んだことがなかったけど、おもしろかった。(会員 11才)
●おまんじゅうを食べるふりがうまかったです。(会員 8才)
●信じてもらうことの大切さ。子育てにもいえますね。(会員 40代)



左手のピアニスト 智内威雄 (高学年対象)
3月12日(金) 山口県教育会館ホール
心地よい美しい音楽。たった5本の指から奏でられているとは思えない厚みのある演奏に時間を忘れるほどでした。
●すごくきれいな音でうとうとしてしまい、ねそうになるほどきれいでした。(会員 12才男子)
●パッパのシャコンヌ…モノクロの世界のようでした。(一般 60代女性)



智内威雄 やわらかコンサート (乳幼児対象)
3月13日(土) C・S 赤れんが
「空間を聴く」。ピアノの下に入ったり、寝転んで聴いたり、空間の音の響きを小さな子どもたちが楽しみました。
●ワンワンと響く音の素晴らしさに改めて気付かせていただきました。
●バタバタした日々で癒しの時間でした。(一般 30代女性)



火よう日のごちそうはひきがえる 人形劇団 京芸 (低学年対象)
4月3日(土) 山口県総合保健会館
冬の森の中、動物たちが心通わす物語。観ている子どもたちも、カエルのウォートンになって、笑ったり、ため息をついたり。
●ひきがえるがはしをつくるとき、だっしゅつできるかどきどきしてよかったです。(会員男子)
●日頃、パーチャルなエンタメを見ているため、このような人と物で作るエンタメは迫力があり感動がありました。(女性)

こんな講座も受けました。

あそぼうつころうプレーパーク ~あそびで変わる!子どもとまち~
講師 関戸博樹氏
11月3日(火・祝) 山口県旧県会議事堂
まわりに自由に遊べる場所はある?夢中になって遊んでいる子どもを見る?関戸さんの問いに考えさせられた時間でした。
●遊び“自分で決めて自分でやる”親として心配で口出ししがちですが、子どもの成長を信じて見守りたいなと思います。(37才女性)

メディア講座 赤い羽根共同募金
子どものスマホ・ネット・ゲーム
講師 瀬口智子氏
2月7日(日) 山口市男女共同参画センター
親子で、スマホ、ゲーム、ネットが脳や体におよぼす影響について、学びました。最後に家庭での約束ごとを決めました。
●むずかしかったけど、なんとなくわかった。きまりをまらろうと思った。(7才女子)
●今でもゲームいぞんじょうはなおるんですか。(男子)